

急性心筋梗塞患者における入院当日もしくは翌日のアスピリン投与率

項目の解説

急性心筋梗塞の治療は、血管カテーテルの技術および新たな材料の開発により急速な進歩を遂げています。これらにより再還流が得られ救命がなされ、また、梗塞巣の範囲が狭く抑えられたとしても、再び心筋梗塞を起こさないように二次予防を積極的に行わなければなりません。アスピリンは抗血小板作用があり、急性心筋梗塞の予後を改善するのに有効であることは多くの臨床研究で示されており、二次予防としての投与意義も確立されています。当然行われてしかるべき治療であり、標準的な診療が行われているか否かを図る指標として有用です。

当院の値(単位・調査期間)

21年度	調査せず
20年度	92.3 % (年間)
19年度	81.8 % (年間)

算式

分子: 入院翌日までにアスピリンが投与された患者数
分母: DPC上6桁が「050030」(急性心筋梗塞)の退院患者数, 緊急入院に限る

定義

急性心筋梗塞患者における入院当日もしくは翌日のアスピリン投与率
対象は救急患者(緊急入院)の急性心筋梗塞(DPC上6桁が「050030」)の患者で、再梗塞も含みます。待期的な治療目的の患者は除きます。